

丸塚中学校実践報告

(1) 実践内容

○学年：第1学年

○単元名：Lesson 6 My family! (10時間)

○4技能：「読む」「聞く」「話す」「書く」を統合的に取り扱った。

原稿を作成した後で、「話す」ため自信を持って話すことができる。また、自分でも原稿を作っているので「聞く」ときに類似表現をスムーズに理解することができる。学習指導要領中では、原稿を元に話すのは、「読む」ことに該当するが、インタビューをする際に、相づちを打ったり、即興的に質問をしたりしたため、「話す」を入れた。

○具体的な指導方法や活動内容：

Lesson 6は三人称単数現在形を文法の言語材料として扱った単元であった。単元のまとめの活動として、友達にインタビューをし、その結果をスピーチ原稿(他者紹介)にまとめ、少人数のグループで発表を行った。スピーチを行うときに、皆が知らないような一面を友達から聞き出して、原稿に入れるように留意させた。

インタビューをする前時に、どのような質問文をどのように作れば、意外な一面を聞き出せるかを考え、グループで話し合った。習熟度が低くて、疑問文を適切に作れない生徒にとっては、他の生徒からの援助が得られ、英語が得意な生徒にとっても新しいアイデアが得られることを目的とした。実際にインタビューを行う際は、事前に原稿を用意し、結果をワークシートにまとめさせた。その後、話の流れを意識してインタビュー結果を元に10文以上の英文でスピーチ原稿を作成した。グループで発表を行った際に、聞き手の生徒は友人について新しく知ったことを英文でまとめた。

○成果・課題

インタビューの準備段階でスモールステップを踏みながら、インタビュー活動を行ったため、習熟度が低い生徒を含め、全員がインタビューの質問を考え、スピーチをするという課題を達成することができた。また、どの生徒にとってもペアがいたため、生徒がやらざる負えない環境になったことも、意欲的に取り組めた要因を感じる。しかし、授業中に全ての生徒の発話や、英文をチェックするには限界があり、様々なエラーが修正されることなく、活動が進んでしまった場面は、やり方を工夫しなければならない。また、スピーチ中は全員の発表が終わるまで日本語を使うことを禁止して、英語を使うように指示したのだが、(Speak slowly, please や Please, speak aloud. Please say that again. など) まだまだトレーニングが足りておらず、日本語を使ってしまう場面が多々見られた。授業開始時の帯活動で、即興的に既習の表現を運用できるようにトレーニングを積んでいるが、構文だけでなく、会話で使える表現をフレーズで生徒にインプットさせてから、さらなるトレーニングを積んでいきたい。